

ミツバチとマルハナバチの併用で収量アップ!

イチゴにおけるマルハナバチの
ご利用ガイド

私たちはミツバチの飛
び辛い厳寒期や天候
不順時にも活動します

日本の在来種クロマルハナバチ

ナチュポール®・ブラック
ミニポール®・ブラック



アリスタライフサイエンス株式会社

メ

モ

クロマルハナバチとは？



マルハナバチは、ミツバチに近い仲間では花（花蜜、花粉）を生活の糧にして生活している社会性のハチです。巣が生活の基本単位で、女王蜂（♀）、働き蜂（♀）が協力しあって卵や幼虫、蛹の世話をします。約半年間の巣造りの期間に平均して働き蜂を数十～数百頭、新女王蜂を0～数十頭、雄蜂を数十～数百頭生産します。

	マルハナバチ	ミツバチ
分布の中心	北半球の温帯、亜寒帯	アジア、欧州、アフリカ
生活様式	1年生	多年生
コロニーサイズ	数十～数百	数千～数万
巣の構造	不定形	垂直巣版
働き蜂のサイズ	バラツキが大きい	一定
働き蜂の脱針性	無し	有り
振動受粉	可	不可
ナス科への訪花性	高	弱
採餌距離	数百m	数km
活動限界温度	6°C前後	10°C以上
悪天候時活動性	中	低
UVカットフィルムの影	弱（除去波長による）	強
狭い空間への適応性	高	低

クロマルハナバチ製品の特長

●低温、低照度下でも活動

ミツバチに比べ、温度の低い寒期や曇天、雨天時でも花粉の稔性が維持されていれば訪花(授粉)活動を行います

●数は少ないが、働きもの

ミツバチよりも働き蜂の数は少ないですが、1匹当たりの訪花数は多く、30分間に約300花を訪れます。

●ミツバチよりもおとなしい



ナチュポール®・ブラック

- 和名：クロマルハナバチ (在来種)
- 学名：*Bombus ignitus*
- 働き蜂数：50頭以上
- 適用面積：10～20 a
- 平均寿命：45～60日



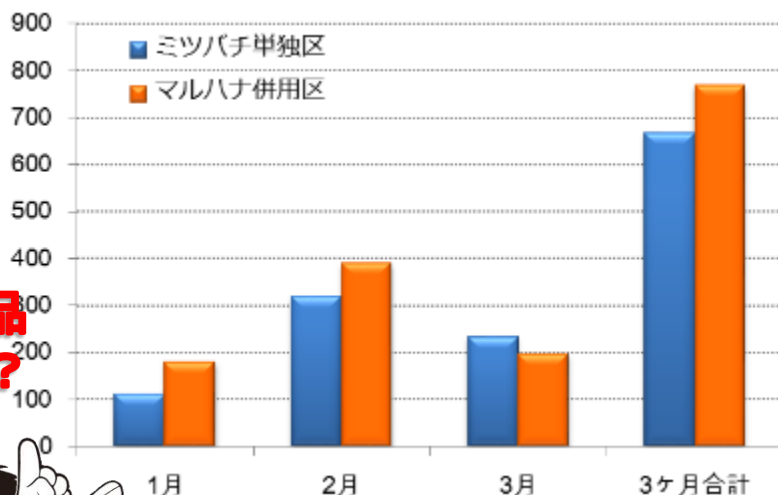
ミニポール®・ブラック

- 和名：クロマルハナバチ (在来種)
- 学名：*Bombus ignitus*
- 働き蜂数：40頭以上
- 適用面積：13 a まで
- 平均寿命：40日程度
- 小面積に対応したコンパクト規格



冬場のB品
減らせないかな？

マルハナバチ
の併用がおすすめですよ！

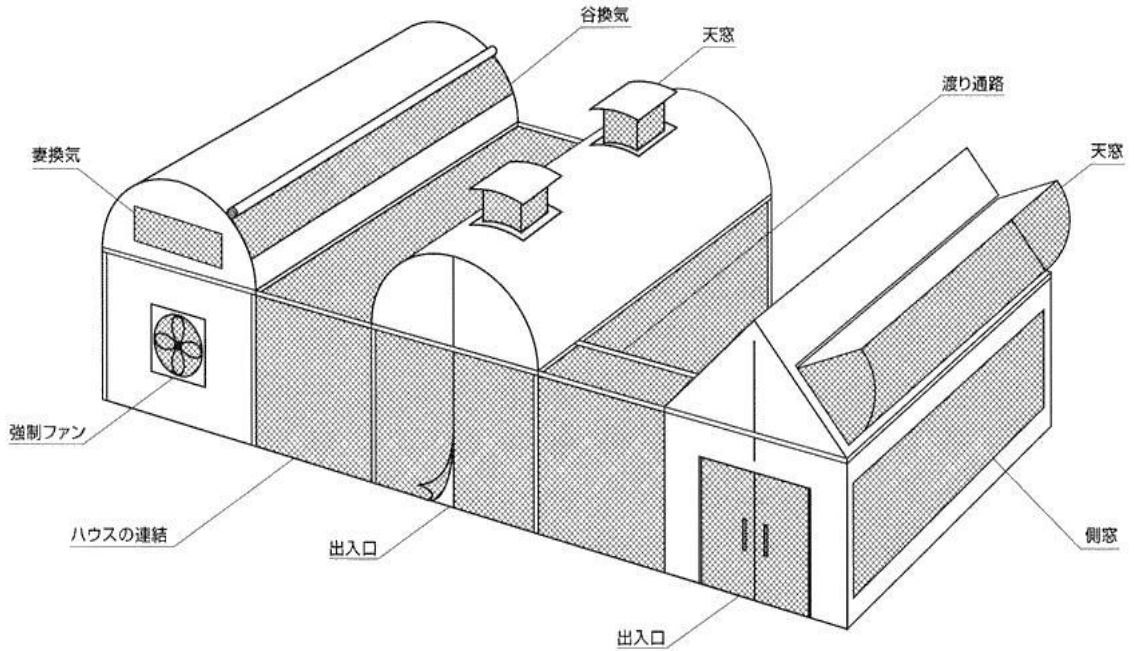


12月からの導入 (約2ヶ月間併用) で、1月、2月の株あたり収量 (g) が大きく増加。3ヶ月間で約15%も収量が増加しました

導入時の留意点

【ご利用前に・・・】

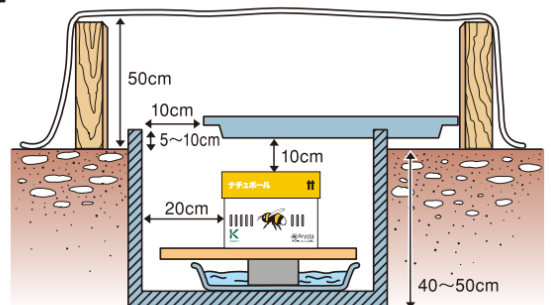
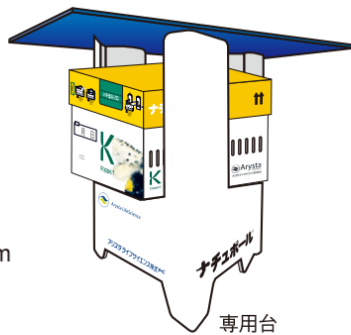
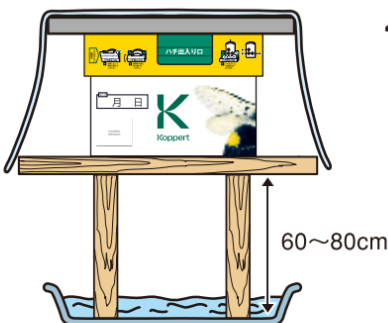
- ① 換気部分（天窗、谷間、側窓）にネットを展張されることをお勧めします



- ② 巣箱はハウスの中に設置。必ず日よけを設置してください

- 巣箱の設置場所は温度、湿度の変化が少ない場所を選んで
- 谷下は温度変化が激しかったり、水滴が落ちやすいので注意
- 直射日光が当たらないように、巣箱の上に屋根を
- 炭酸ガスを施用している場合には、巣箱は腰よりも高い場所に設置してください

設置例



※巣箱の側面に日光が当たる場合は、寒冷紗をかける等、側面にも日除けが必要です。



【導入前の準備】

- ① 花は十分に咲いていますか？
- ② ハチの活動適温は10℃～28℃です。巣箱の設置場所は準備完了ですか？
- ③ 巣箱が到着したら、巣門の開放は翌朝に行いましょう

雨滴が当たらない
温湿度が安定した場所

【巣箱の設置場所】

- ① 巣門正面に障害物がない場所
- ② 温度、湿度変化が少ない場所
- ③ 雨滴が落ちてこない場所
- ④ 巣箱には必ず日よけを！



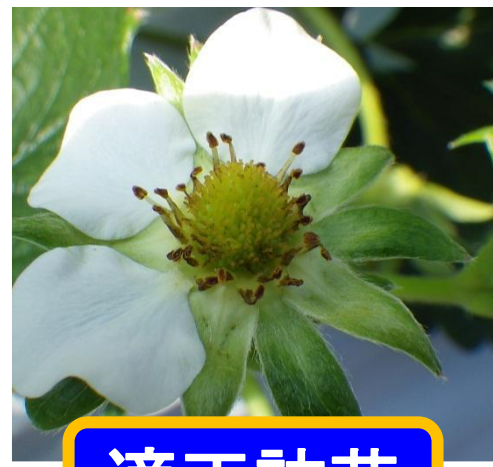
訪花活動の確認

曇天、雨天、
低温が続くと仕事ができ
ない……

花が少ない
と訪花し過ぎて花を傷
める……



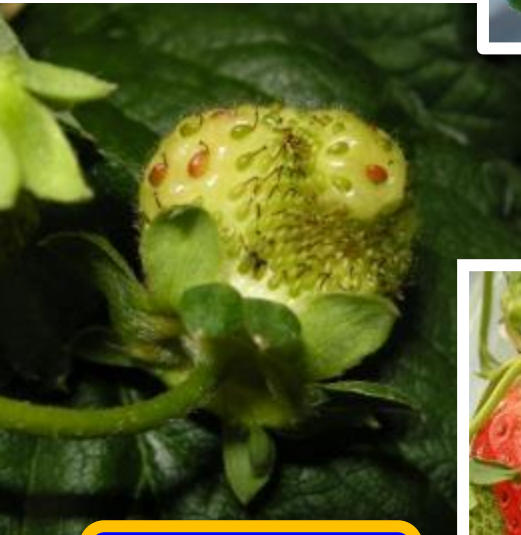
未訪花



適正訪花



過剰訪花



奇形果



奇形果

小ハウスでの利用、過剰訪花への対策

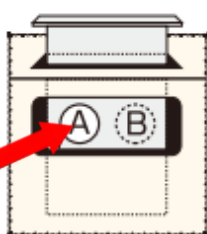
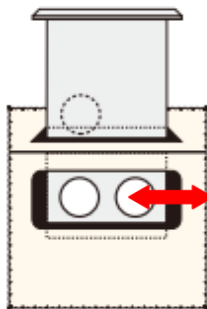
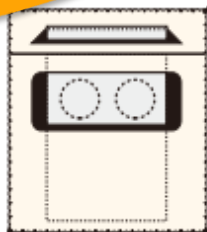
1. 巣門を回収用の口にして、働き蜂を回収し、出巢制限を行う(次の花が開花するまで出巢させない)
2. 乾燥花粉を給餌し、コロニーの採餌欲を軽減する
3. 2~3日開放、2~3日閉じ込めの訪花制限を行う
4. 他のハウスに導入するローテーション利用

活動確認をしながら、
乾燥花粉をまめに
与えるのがポイント！

閉鎖モード

使用モード

回収モード



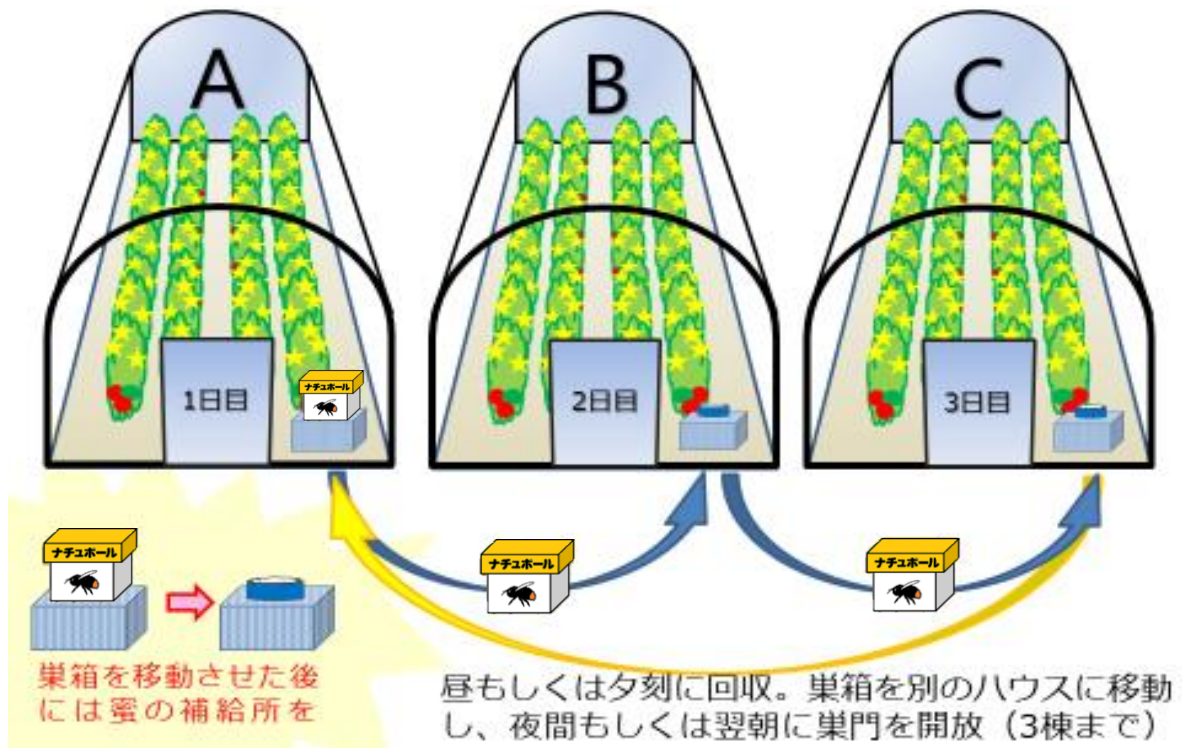
乾燥花粉は花粉給餌口から
中の巣に落としてください
花粉を与える時以外は給餌口を
閉じてください



小ハウスでの利用、過剰訪花への対策

①ローテーション

小規模ハウスをいくつか保持されている生産者の場合には、回収モードではなく通常の活動モードのまま、日が暮れて働き蜂が帰巢するのを待ってから巣門を閉じて、翌朝にハウスを移動して開放します。これを500㎡～1,000㎡程度のハウスであれば1棟毎に1日活動させて3棟までローテーションできます。



②隔日もしくは3日おきに開放

小規模（～1,000㎡）かつ1棟しかハウスを持っていない生産者の場合には、活動を1日活動させた後、回収モードではなく通常の活動モードのまま、日が暮れて働き蜂が帰巢するのを待ってから巣門を閉じます。巣門を閉じたまま1日もしくは2日の間隔を置いてから1日活動させることを繰り返します。

③半日開放

巣の活動が活発で、より小規模（～500㎡）のハウスの場合には半日だけ活動させて②と同様数日の間隔をあけてから、また半日開放を繰り返すようにします。この場合には午前中に活動させるとその後の回収が困難ですので、午後からもしくは日暮れまでの2～3時間前に開放して活動させ、日暮れによるタイムオーバーで必然的な活動時間制限をかけます。



【農薬の影響】

- ① 残効日数は厳守
- ② 散布後に雨天や曇天になったら、残効は1.5倍に計算
- ③ 薬散後に水たまりができる施設は残効を1.5倍に計算
- ④ 混用したら残効日数を足し算して

活動し易い環境をつくる

【ネットがないと】

- ① 施設外の花を求めて飛散し、トマトへの訪花率が低下
- ② モズやセキレイなどの鳥による働き蜂の食害
- ③ 露地作物での農薬散布による被害



マルハナバチに対する農薬影響表

マルハナバチへの農薬影響表（クロマルハナバチ、セイヨウオオマルハナバチ共通）

殺虫・殺ダニ剤	
商品名	影響日数
アーデント	3
アカリタッチ	0
アクセルフロアブル	8
アクタラ（粒）	21
アクタラ（水）	42
アグリメック	7~14
アグロスリン	20以上
アタブロン	4
アディオン	20以上
アドバンテージ（粒）	21
アドマイヤー（粒）	35以上
アドマイヤー（水）	30以上
アニキ	1
アフーム	2
アフームエクセラ	2
アブロード	1
アブロードエース	1
アルバリン/スタークル（粒）	10以上
アルバリン/スタークル（水）	14以上
ウララ	0
オルトラン（粒）	14~30
オルトラン（水）	10~20
オレート	0
カウンター	1
カスケード	2
カネマイト	2
ガードホープ	14
クリアザール	1
グレーシア	1
コテツ	9
コルト	3~7
コロマイト	1
サイハロン	4
サフオイル	0
サンクリスタル	0
スカウト	2
スターマイト	1
スピノエース	3~7
スブラサイド（水）	30
スミチオン	20以上
ダイアジノン（粒）	30
ダイアジノン（乳・水）	15~30
ダニコング	1
ダニサラバ	1
ダニトロン	1
ダブルシューター	3
ダブルフェース	1

殺虫・殺ダニ剤	
商品名	影響日数
ダニオーテ	1
ダントツ（粒）	21
ダントツ（水）	15以上
チェス	0
ディアナ	1~3
テルスター	30
トランスフォーム	2~5
トリガード	1
トルネード	6
トレボン	20以上
ニッソラン	1
ネマキック	14以上
ネマトリン	14以上
ノーモルト	1
バイデート(粒)	14
バリアード	1
パルミノ（モレスタン）	3~5
BT剤（ジャック®ットなど）	1
ピラニカ	1
ファインセーブ	1
ファルコン	1
フェニックス	1
プリファード	0
プリロソ	1
プレオフロアブル	1
プレバソ	1
フーモン	0
ベストガード（水）	10以上
ベストガード（粒）	30以上
ベネビア	1
ベミデタッチ	0
ベリマーク	1
ポタニガード（ES、水）	1
マイコタール	1
マイトコーネ	1
マッチ	0
マトリック	1
マブリック	2~3
マラソ	30
ミネクトデュオ	定植後21
ムシラップ	0
モスピラン	1~3
モベント	45以上
ヨーバル	散布14
ラグビーMC（粒）	30以上
ラノー	0
ロディー	14以上

殺菌剤	
商品名	影響日数
アフエット	1
アミスター	1
アリエッティ	2
アントラコール	1
イオウフロアブル	0
オーソサイド	0
オルバ	0
カスミン	0
カリグリーン	0
カンタス	0
クムラス	0
ゲッター	0
ケンジャ	0
サブロール	0
サンヨール	0
ジーファイン	0
ジマンダイセン	0
ジャストミート	0
ショウチノスケ	0
スクレア	1
ストロビー	0
スミレックス	0
セイビアー	0
ダコニール	0
銅剤	0
トップジンM	0
トリフミン	1
ネクスター	1
ニマイバー	0
バレード	1
バチスター	0
ピクシオ	0
ピシロック	0
ファンタジスタ	0
ファンベル	1
ブリザード	1
フルピカ	0
プロパティ	0
ベルコート	0
ベンレート	0
ホライズン	0
ポリオキシシAL	0
モレスタン	3~5
ライメイ	1
ランマン	0
ルビゲン	0
レーバス	1
ロブラール	0

（2023年9月改定）

上記表にはイチゴに登録が無い農薬も含まれます。農薬を使用する際にはラベルをよく読んでください。

注）農薬散布する時は、散布前にマルハナバチを巣箱に回収し、別の場所で保管して下さい。

再放飼する時は、影響日数をあけて行って下さい。影響0日の薬剤は、薬液が乾燥してから行って下さい。

表中の影響日数はあくまで目安であり、濃度、散布量、環境条件、気象条件等によっても異なります。

※この表は日本生物防除協議会、農薬メーカー、試験研究所などの情報を基にアリスタライフサイエンス（株）の知見を加え作成しています。



豊かな実りを日本のマルハナバチで

曇天、雨天、低温時でも活動する ナチュポール・ブラック や ミニポール・ブラック を併用すれば、ミツバチの活動を補完し、イチゴの収量の安定化につながります。

在来種クロマルハナバチのご利用には、許可申請、識別措置・届け出、増減台帳管理、許可の更新などの外来生物法に関する
いっさいの手続きが必要ありません。

※ 在来種マルハナバチの利用でも施設換気部にはネットの展張を

